

第5回 庄原市長期総合計画審議会 会議録（摘録）

1. 開催日時 平成 18 年 11 月 20 日（月）
開会 13 時 30 分
閉会 15 時 10 分
2. 開催場所 庄原市役所 本館 2 階会議室
3. 出席委員 藤岡 辰彦 委員 ・ 日野原 貢 委員 ・ 谷本 淳一 委員
塩本 誠二 委員 ・ 湯川 圭司 委員 ・ 桑原 昇導 委員
上田 正之 委員 ・ 白川 牧子 委員 ・ 野原 建一 委員
小田 恵子 委員 ・ 加藤 博和 委員 ・ 片山 孝昭 委員
石川 芳秀 委員 ・ 名越 勝美 委員 ・ 川崎 綱人 委員
松島 義治 委員 ・ 原田 吉祥 委員 ・ 吉野 留弘 委員
草谷 量政 委員 ・ 坂村 廣嗣 委員 ・ 田宮 淳義 委員
4. 欠席委員 長曾チクサ 委員 ・ 長岡 廣樹 委員 ・ 田中 光枝 委員
門田 三雄 委員
5. 出席職員 庄原市助役 入江 幸弘
地域振興部長 國光 拓自
地域振興部企画課長 中本 淳
地域振興部企画課企画調整係長 兼森 博夫
地域振興部企画課企画調整係 池田 貴徳
6. 傍聴者 1 名
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

第5回庄原市長期総合計画審議会次第

平成18年11月20日（月）13:30～
庄原市役所 本館 2階会議室

1. 開 会

2. 本部長あいさつ

3. 会長あいさつ

4. 議 事

(1)基本構想(最終案)について

基本構想(案)資料1

基本構想(案)変更表資料2

(2)基本計画(最終案)について

基本計画(素案)資料3

基本計画(案)変更表資料4

前回長期総合計画審議会・各地区地域審議会の意見とその対応.....資料5

(当日配布)

5. 閉 会

会 議 経 過

1 開会

2 本部長（助役）あいさつ

合併から1年半を経過し、豪雪や豪雨など予期せぬ自然災害に見舞われたが、現在は、大きな混乱もなく、平穏に推移している。しかし、本市の財政状況は「危機的な局面」に至っており、今後の行政運営にも懸念を生じている。

こうした中でも、私たちは「ふるさと」を守り、未来へつなぐ責任があり、「さとやま文化都市」の創造へ向けて、確実に前進しなければならない。

審議会は一応、本日を最終とし、その後、市長への答申、議会審議を経て、長期総合計画が完成する予定である。

委員の皆様のこれまでのご協力に厚くお礼を申し上げるとともに、引き続き「まちづくり」へのご理解・ご支援をお願いしたい。

3 会長あいさつ

庄原市のまちづくりを進める上で、最上位の指針となる長期総合計画の審議を進めているが、第5回目となる本日の審議会は、取りまとめの最終会議となる。

これまで、委員の皆さんから頂いた貴重な意見・提案をもとに、その都度、修正や変更を加えてきたが、本日の会議では、その基本構想・基本計画の最終案を提示する。

1市6町が合併後、初めて策定される長期総合計画であり、新しいまちとして相応しい内容となっているか、様々な視点からご検討いただき、最終の整理を行いたい。

限られた時間の中ではあるが、活発なご意見・ご提案をお願いします。

4 議事

(1) 庄原市長期総合計画基本構想（最終案）について

資料1、2、5により事務局が説明

会 長：細かい指摘でもかまわないので、様々な視点から、ご意見を頂きたい。

委 員：2点の質問がある。

まず1点目は、P8「(15)格差社会からの転換」の中に、「負け組み」という記述があるが、「み」という送り仮名はいらぬのではないか。

また、この社会背景に対して、庄原市はどのような取り組みを進めるのか、詳しく

示した方が良いのではないか。

2点目は、P60「基本構想の体系図」を見ると理解ができるが、P42「将来像」の次に、「地域で支える将来像」「エリア別整備方針」「クラスター型の未来都市づくり」「基本フレーム」「施策大綱」と続き、文章整理が並列的になっているように感じる。どのように地域政策を展開するのか、分かりやすくした方が良いのではないか。

会 長：P8「(15)格差社会からの転換」についての取り組みは、「競争社会から共生社会への構造転換」と整理しているが、もう少し具体的な説明が必要ないのではないかと
いう意見である。

事務局：ここでは、社会背景として全国的な傾向を記述しており、市の具体的な取り組みは整理していない。

会 長：「競争社会から共生社会への構造転換」の具体的な取り組みとしては、P58「重点戦略プロジェクト」の中でも整理しており、地域資源を活用した施策となる。

委 員：P38「自律」という記述があるが、「自立」ではないのか。

事務局：ここでは、自分自身で立てた規範に従い行動する意味を表しており、「自律」と表現している。

委 員：P33「市民の声」は、住民意向アンケート調査の結果だけを記載しているが、結果を分析したコメントなども記述した方が良いのではないか。

会 長：アンケート調査の結果や市の地域特性などから「深刻な問題」を整理している。
市民の皆さんに調査結果のデータを示し、それぞれの考えで分析・判断して頂いても良いのではないか。

委 員：言葉で整理するより、現在の通り、データだけの記載で良いと考える。

会 長：このままデータのみでの記載とし、課題については市民各自で読み取って頂くこととする。

なお、基本計画では、満足度調査の結果を基本施策ごとに円グラフで示しているの
で、ご確認頂きたい。

基本構想について、他に意見が無ければ「承認」として整理したいがよろしいか。

全委員：承認。

(2) 庄原市長期総合計画基本計画(最終案)について
資料3、4により事務局が説明

会 長：基本計画について、ご意見をお願いしたい。

委 員：P34・目標指標「総人口」の目標値を43,000人と設定しているが、目標を達成する具体的な施策を記述してはどうか。

例えば、定住を促進するための担当課を設置するなど、積極的な姿勢を示す必要があるのではないか。

事務局：現在、定住施策については、商工観光課が所管している。

基本計画の中では、具体的な事業の記述はしていないが、定住促進は非常に重要な施策となるため、効果的な事業を検討し、適宜実施していきたい。

また、定住促進プロジェクトを策定中であり、その計画を基本として、定住の促進に努めたい。

委 員：計画の実施にあたっては、積極的な定住施策を推進するという説明だと思うが、ここに位置づけなければ、財政的な理由により後送りされる心配があるのではないか。

人口は、まちの基本数値であり、交付税算入などにも関連する。基本的なことに重点を置かないと、市が衰退する恐れがあるのではないか。

委 員：定住を促進するため、該当世帯へ補助を行うなど、子どもを産み・育てやすい環境づくりにも努めてほしい。

会 長：「定住人口をいかに維持・増加させるか。」という対策は、全国の各地域で取り組まれているが、決め手となる有効策がないのが現状である。また、定住人口の維持・増加のためには、その時、その地域の実情に応じた施策の展開が必要である。

定住を促進する環境づくりについて、もう少し詳しい記述が必要かもしれないが、長期総合計画は、まちづくりの基本的な方針を示すものであり、具体的な取り組みについては、個別計画または事業を整理する中で、検討する方が良いと考える。

委 員：団塊世代をはじめ、田舎に移り住みたいという人は多くいる。少しでも多くの人が、本市を選び移り住むよう、担当課を超え、横の繋がりを重視する定住施策の推進体制が必要である。

委 員：P33「総合相談窓口の設置」だけでなく、例えば、学校の統廃合により空いた教員

住宅を用途変更し、市営住宅として利活用するなど、もっと具体的な対応策が必要である。

事務局：子育て支援や定住促進などは総合施策であり、様々な分野の施策を展開することで、相乗的に効果が上がるものだと考える。

今回策定を進めている長期総合計画は、ビジョンと概念を示すものであり、この計画を基に、具体的な戦略や戦術を検討する。

P33では、「総合相談窓口の設置」と記述しているが、「総合窓口」として理解して頂いても構わない。

定住を推進する上では、課を超えた連携が重要になると考えており、必要に応じて専門課の設置なども検討したい。

委員：財政状況が厳しい中ではあるが、市民生活の向上策、定住の推進策を速やかに実施して頂きたい。

委員：P21「市民の満足度アンケート」では、「産学公民」としており、「次の施策に取り組みます」の中では、「産学官民」と記述してある。表現を統一した方が良いのではないか。

委員：住民意向アンケート調査では、「市民の意見・提言が市政に、あまり反映されているとは思わない。」という回答が最も多く、満足度アンケート調査の結果では、51の設問の内、42の設問で「どちらともいえない。」という意見が最も多くなっている。P2に「2“市民のちから”を活かします」と整理されているが、これらの調査結果から、市民自身が力をつけることも重要であると考えます。

また、観光分野でも市民アンケート調査を実施しているが、観光客数を増やすだけでなく、本市を訪れる人の満足度を上げることが重要となるため、来訪者に対するアンケート調査の実施など、そのニーズを的確に把握することが必要になるのではないかと。

今回の計画策定に関して、パブリックコメントを実施されたが、何件の意見があったのか。

事務局：この計画の中では「産学官民」という表現に統一する。

満足度アンケートの調査で、「どちらともいえない」と回答した人は、その施策を十分には理解されていない、もしくは、知らないことが理由のひとつと分析している。

施策について、「満足」する人を増やすとともに、「不満」「どちらともいえない」と回答する人を減らすことも重要であると考えており、様々な情報を市民の皆さんに提供し、理解して頂く必要があると考えている。

観光分野では、現在、来訪者のニーズを把握していないが、アンケート調査の実施なども含め、新たな取り組みを検討したい。

なお、この計画について市ホームページを通じて実施した意見聴取では、1人の方から12件の意見を頂いている。

会長：満足度アンケート調査で、「どちらともいえない」と回答した人が非常に多いが、行政情報が十分市民に行き渡っていないことが考えられる。

今後は、広く市民に情報を提供した上で、協働のまちづくりを推進して頂きたい。

委員：重点戦略プロジェクトが設定されているが、プロジェクトの中で示されている通り、農林業を行うことで商業が活性化され、地域が発展し、子どもが増え人口が維持できるのか不安がある。

今の庄原市にとって、この戦略を重要施策として位置づけることが本当に適切なのか。

会長：重点戦略プロジェクト「『みどりの環』経済戦略ビジョン」は、その中に、いくつかのプロジェクトを設けている。基本計画では、全てを書き記しているのではなく、地域資源を活かした新たな産業構築の方向を示している。

事務局：「『みどりの環』経済戦略ビジョン」は、4つのプロジェクトで構成しており、その内、「農業自立振興プロジェクト」については、既に予算化された事業もあり、新たな取り組みを展開している。

「木質バイオマス活用プロジェクト」は、事業化に向けた取り組みを進めており、「観光振興・定住促進プロジェクト」は、具体的な方向を示す計画を策定している。

委員の皆様も、歯がゆい思いをされていると思うが、具体策は現在検討しているということで、ご理解いただきたい。

また、「このプロジェクトを実施することで、市が活性化するのか。」という質問であるが、日本経済が上向きに転じた中でも、本市をはじめとした中山間地域は、依然、厳しい状況が続いており、この現状の中で何もしないのではなく、なんとか地域活力を向上させるための取り組みとして、地域資源を活用した施策を展開する必要があると考えている。

この重点戦略プロジェクトは、その方針を示すものである。

委員：農林業も確かに重要ではあるが、起死回生策として、企業誘致を考えても良いのではないか。

また、アグリビジネスという言葉があるが、新たな特産品を検討するなど、農産物の付加価値を高める必要があるのではないか。

会 長：起死回生となる地域振興策は、なかなか難しいのが現実である。地域資源を活かすまちづくりが重要であると考える。

委 員：地域を活性化させるため、この地域に住む人だけが頑張るのではなく、市民をはじめ市外から訪れる人の思いやニーズを把握することが必要である。

また本市には、総合的に地域活性化策を行う資金力はない。総合的にやれば資金があるところに負けてしまうため、選択と集中の視点を持ち、一点突破型で事業を展開する必要があると考える。

委 員：先日実施したまちのイベントでは、観光客に普段の地域の取り組みを見て頂いた。そのことが返って、訪れた人に新鮮に感じられたようだ。

それぞれの地域が、みんな同じになる必要はなく、人はそれぞれ違って良いと考えている。

金銭的なことも確かに大切なことではあるが、自分達が、自分達らしく生きることができる、そういう地域づくりが必要である。

会 長：普段着のまちの様子を発信する。それを行政が支援するのも良いアイデアである。

委 員：今あるものを大切にすることで行うことで、様々なまちの魅力が広がる。また、その情報を発信することで、増加している外国人観光客を本市に誘導できるのではないかと。

会 長：本市は、中国をはじめとする様々な国の人々を、温かく迎えることができる体制が構築されている。

そういう点も、アピールできれば良い。

委 員：長期総合計画は、まちづくりの基本となるものであり、市民誰もが、その方針を共通的に認識するためのものである。

現在、中国横断自動車道尾道松江線の整備が進むなど、今後、観光客のさらなる増加が期待されていることから、計画の即効性も重要になると考える。

会 長：基本計画について、他に意見が無ければ、「承認」として整理したいがよろしいか。

全委員：承認。

会 長：それでは、ご指摘いただいた点を修正し、市長へ答申したい。その変更作業につい

て、事務局と私に一任して頂いてもよろしいか。

全委員：異議なし。

会 長：長期総合計画は、まちづくりの方向を示すものであり、今後は、それに沿った施策の展開、将来像の実現が重要となる。

審議会は、今回で最終となるが、委員の皆さんの長期間にわたる熱心な議論に、心より感謝申し上げます。

また引き続き、協働のまちづくりを推進するため、ご理解・ご協力をお願いしたい。

6 . 閉 会